

## 総会時に会員からいただいたご質問と回答について

<p>前を向こうとしている新役員のみなさまには敬意を表したい。しかし、事業計画・予算が大きく変更・方針転換された理由が何も書かれていないのはどうも納得できません。会員を信じてもいいのではないのでしょうか？</p>	<p>2018 年度事業計画・予算が大きく変更した理由につきましては、17 年度＜金融機関との連携＞における業務委託契約等の解消に伴い大幅な変更(18 年 3 月 17 日(土)開催の臨時総会において報告、17 年度修正予算を承認)したことから、18 年度以降も事業計画と予算の見直しが必要と判断しました。</p>
<p>これからの momo に対して具体的なイメージが持てていません。ただ momo の取り組みを「いいな」と思い、会員になったときの気持ちは変わりません。</p>	<p>この度の定時総会ではその具体的な内容について、私たちの力不足でお伝えすることはできませんでした。引き続き、討議を継続しているところです。現時点では、融資事業を 10 月より再開することを最初の取り組みとし、以下の 3 つの方針を確認しました。</p>
<p>木村さん、素晴らしい取り組みをパイオニアとして実現されて感心していました。退任して次なる道はいかに。そして新しい理事のみなさん、どんな momo をつくっていくのでしょうか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎思いの共有やつながりを育むことを大切にする融資</li> <li>◎顔のみえる関係をより丁寧に築く</li> <li>◎一年かけてつくる、あたらしい momo のかたち</li> </ul> </div> <p>会員の皆様にいち早くお伝えできるように尽力してまいります。</p>
<p>予算上、受取寄付金で新規にマンスリー50 万円が計上されて、当期正味財産増減額が 0 となっています。事業計画で新規寄付募集の取り組みについての言及がないことが気になりました。</p>	<p>取り組みを延期している「SROI 測定サポーター養成講座」の運営費としていただいております資金「momo たね基金」を具体的にどのような展開をしていくのかを議論した上で、18 年度の momo の取り組みに活用をさせていただくことで進めています。</p>
<p>momo は、融資事業で資金を循環させる NPO バンクとして自立する組織として 13 年前から存在していますが、現在はクラウドファンディングみたいなもので代替できる時代になったと感じます。融資を借入して返済するよりも、クラウドファンディングなどで資金を集めることが主流となりつつある現状で、momo はどのような役割を果たしていくのか。</p>	<p>ご質問の通り、周囲の環境は変わりつつあると感じています。信用保証制度が解禁するなど、地域金融機関の見方が変わってきたという実感があるためです。また、クラウドファンディングなど資金を集める色々なアイデアや手法が登場して、事業者にとって、資金を得る方法の選択の幅が広がってきました。なので momo がこれまで取り組んできた融資事業は求められていないのでは？と感じることが多々あります。</p> <p>そのような環境の変化がある中でも、定款 2 条で宣言している“「お金の地産地消」を通してつながり、よりよい地域をともにつくっていくために、次世代を担う若者たちが自分の住みたい街や未来を選択していく”ことは、融資という取り組み以外にも、会員とともにお金の使い道を選択し、一緒に地域や社会の問題に立ち向かっていくことも大切であると考えています。</p>
<p>東海若手起業塾や東海労働金庫などの大きな事業収入が途切れている中で、収益を生みだせる事業の創出をしようと言っていたが、1 人のヒ</p>	<p>NPO バンクのしくみは、融資事業単体では組織を継続させていくのは難しいです。そんな中でも継続のために事業収入を得ることはもちろん、momo が育ててきた良い点(非資金的支援)は残していきます。新体制では、momo の仕組みを見直して、現状のままでいくのか、別のものが必要</p>



<p>ローが委託・コンサルで儲けて momo が潤っていく状態だと momo の融資は儲からないし、これからの持続性がないのでは？</p>	<p>なのか協議を重ねていますが、今回の定時総会までに具体的な事業計画と予算に落とし込むことができませんでした。今後議論を重ねていく中で、今回のご質問に対して具体的にお伝えできるよう尽力いたします。</p>
<p>労務関係について、専従有給スタッフから外注（業務委託契約）になったが、いままで専従有給スタッフがやってきた仕事はどうなるのか？ どう補っていくのか？</p>	<p>専従有給スタッフがこれまで担ってきたものを棚卸して細分化・マニュアル化できるようにしています。momo に求められている融資先・出資者をつなぐ役割と、お金の管理が特に重要な部分だと考えているので、優先的に着手しています。</p> <p>その他、多くの部分は理事で分担しながら、事務局スタッフと協力体制を取りつつ進めています。同時にセキュリティ面を十分配慮し、アプリケーションの活用やオンライン化により作業効率をあげてしっかり管理していきます。</p>
<p>事務局は業務委託契約で運営しているが、なぜ業務委託契約にしたのか。事務局業務は、momo の出資や融資を行う根幹部なので、業務委託契約とでは、個人情報など機密性の高い情報について NDA（機密情報保持契約）は交わしているのか？</p>	<p>業務委託契約にした理由は、本人が別の仕事をしながら momo の事務局業務にも関わっているためです。事務所に行かなくても業務可能な環境などを模索した結果、アルバイト等ではそれが難しいと判断しました。本人とは契約時に協議をして同意のうえ、携わってもらっています。また本人はボランティアスタッフ（momo レンジャー）として 2 年以上活動していることから、その信頼性などが十分あると判断しました。</p> <p>加えて、守秘義務や機密情報保持に関する内容を契約書に載せたうえで締結しており、個人情報などを大切に扱っています。</p>

